

# 議題 1

平成30年5月23日  
学校教育部指導第一課  
学校教育部指導第二課

## 平成30年度学校経営支援システムの実施について（報告）

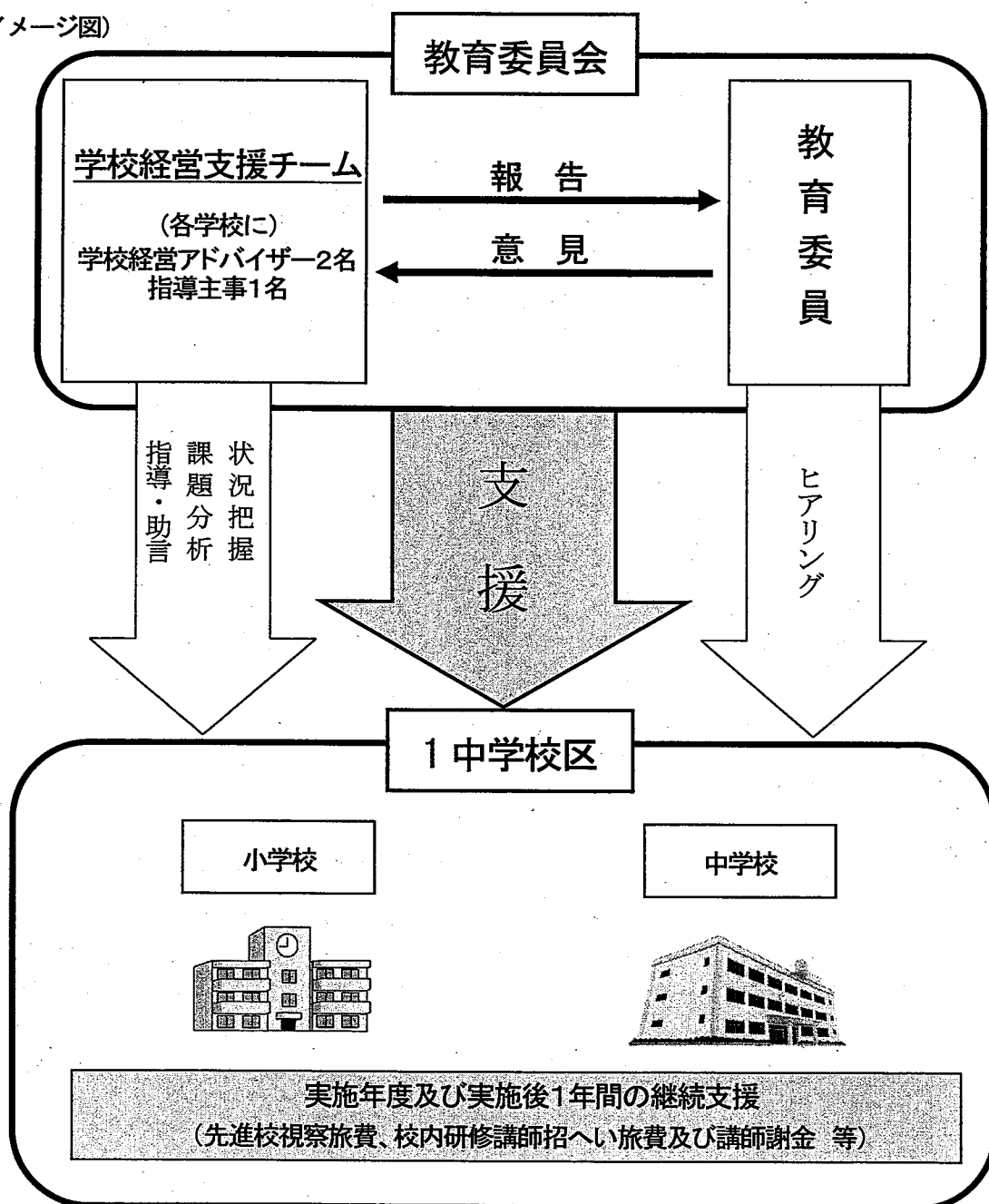
### 1 学校経営支援システムについて

#### (1) 目的

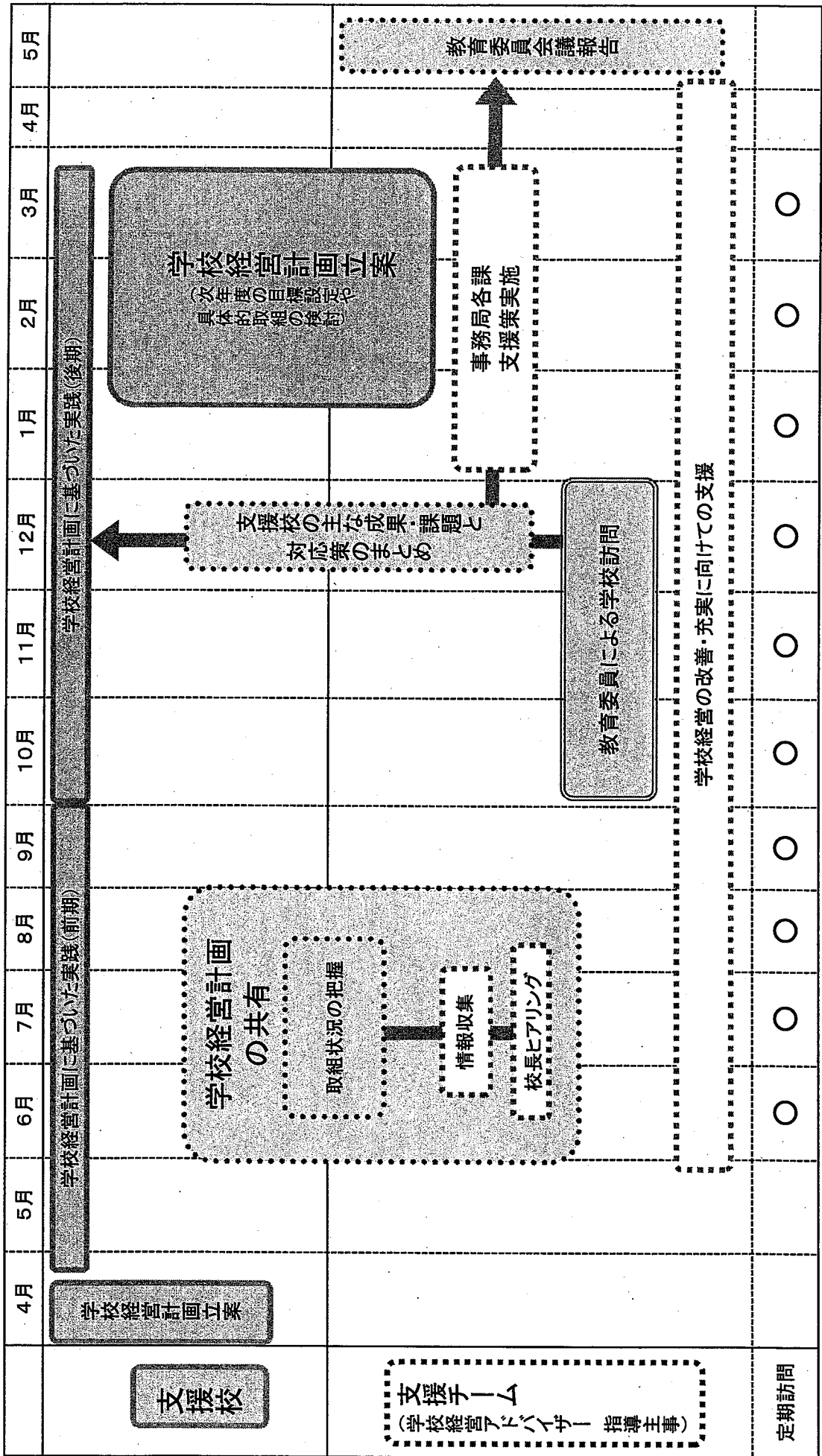
校長の学校経営について、学校経営支援チームによる課題分析や教育委員からの意見を踏まえながら、その改善や充実に向けた具体的な支援を行うことにより、実効性のある学校経営の実現を図る。

#### (2) 実施体制

(イメージ図)



2 平成30年度 年間スケジュール



### 3 亀山中学校区における教育委員による主な意見提言

	評価項目	意見提言
亀山中学校	授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 明確な授業スタイルや具体的な方策を学校全体で共有する必要がある。</li> <li>○ 学力が広島市、広島県平均と比べて低いことや家庭学習の時間が短いことについて、対策が必要である。</li> <li>○ 中学校区で9年間を見通した学力向上を進めていく必要がある。</li> </ul>
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒指導を中心とした組織的な生徒指導体制を構築した成果が出ており、取組の継続が望まれる。</li> <li>○ 不登校生徒が13人いることや自分にはよいところがあると思っている生徒の割合が、市、県平均に比べて低いことが課題である。生徒個々の活動を見取り、肯定的な評価をしていく必要がある。</li> </ul>
亀山小学校	授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業内で基礎基本の徹底ができるよう、ワークシートやドリルなどを使った反復学習を行っていく必要がある。</li> <li>○ 算数の授業展開について、学校で統一する必要がある。</li> <li>○ 児童が主体的に取り組もうとするための具体的な支援やワークシートなどの工夫について研究し合うことにより、授業改善につなげていく必要がある。</li> </ul>
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童の個別状況について小中で共有し、より児童の実情にあった個別支援を進めていく必要がある。</li> <li>○ 「チーム学校」の体制づくりを進め、より児童の実情に合わせた個別支援を進めるとともに、教員の負担を減らす必要がある。</li> </ul>
亀山南小学校	授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研修組織を見直し、教科を超えて共通に「つけたい力」を具体化し、見える化をする必要がある。</li> <li>○ 学力向上の傾向を定着させるために、家庭学習の時間を増やす必要がある。</li> </ul>
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己肯定感が低いことが学習意欲の低下につながっていることも考えられるので、改善に向けた指導の工夫が望まれる。</li> <li>○ 専門家スタッフの力を借りて、生徒指導上の課題に対応する必要がある。</li> </ul>

1 学校教育目標

『知・徳・体』の基礎・基本を大切にし、これからの社会生活に必要な、生きる力を身につけた生徒の育成をはかる。	30年度 スローガン ～ re:Try ～ 再：挑戦
---	-------------------------------

<p>経営理念</p> <p>地域に根ざし、地域を愛する心を育み、知・徳・体のバランスの取れた実践を活かし、社会に貢献できる生徒の育成を目指す。</p>	<p>基本理念</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できない理由を探さない。やるための方法を探す</li> <li>・教職員の共通理解のもと一致した指導体制</li> <li>・率先垂範（チームワーク）</li> </ul>
--	--

2 目指す姿（学校像・幼児児童生徒像・教師像）

<p>目指す学校像（ビジョン）</p> <p>&lt;めざす生徒像&gt; 元気な生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自ら学び、考え、表現できる生徒</li> <li>○自らすすんで挨拶ができる生徒</li> <li>○夢や希望に向かって挑戦し続ける心身ともにたくましい生徒</li> <li>○地域行事に積極的に参加する</li> </ul>	<p>&lt;めざす学校像&gt; 元気な学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○確かな学力を育む学校</li> <li>○規範意識と思いやりの心を育む学校</li> <li>○挑戦し続ける活力のある学校</li> <li>○地域に根ざした教育を進める学校</li> </ul>	<p>&lt;めざす教師像&gt; 元気な先生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習の価値を生徒に認識させ、興味・関心を持って主体的に学習に取り組ませることのできる教職員</li> <li>○高い倫理規範と社会規範に満ち、他の模範となる教職員</li> <li>○生徒と共に活動する教職員</li> <li>○教育者としての使命感と行動力・実践力を有し、向上心を持ち続ける教職員</li> </ul>
---	--	--

3 現状と課題（重点目標設定理由）

基礎・基本定着状況調査や全国学力・学習状況調査では、平均通過率・正答率が「県」「市」の平均よりも大きく下回り、通過率30%未満の生徒も昨年度と大きな変化は見られない。これまで取り組んできた特別支援の視点での授業改善や生徒指導三機能を生かした授業改善は効果的であると思われるが学力の向上には結びついていない。

4 目標

短期経営重点目標	評価指標	主な具体的方策
<p>[中期経営重点目標]</p> <p>学力の伸張を図る（知）</p> <p>ア) 学力の三要素の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①基礎的・基本的な知識</li> <li>②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力 等</li> <li>③主体的に学習に取り組む態度の育成</li> </ul> <p>イ) 言語活動の育成</p> <p>ウ) わかる授業の育成</p>	<p>[評価指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「全国学力」等の11項目中6項目を達成する。</li> <li>○「自分の考えや思いを他人に伝えている」の肯定的評価全学年90%以上</li> <li>○「どの授業もよく理解できた」の肯定的評価全学年85%以上</li> </ul>	
<p>学力の伸張を図る</p> <p>ア) 学力の三要素の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①基礎的・基本的な知識</li> <li>②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力 等</li> <li>③主体的に学習に取り組む態度の育成</li> </ul> <p>イ) 言語活動の育成</p> <p>ウ) わかる授業の育成</p>	<p>①「全国学力」においてA問題の正答率の伸張を図る。 国語A -5.0(-5.6) 数学A -4.0(-8.1) 目標(前年の結果)</p> <p>②「全国学力」において正答率30%未満の割合を県・全国と比較し差を縮める。 国語A ±0(+0.4) 国語B +2.0(+1.6) 数学A +3.0(+5.3) 数学B +4.0(+6.8)</p> <p>③「全国学力」においてB問題の正答率の伸張を図る。 国語B -3.0(-7.0) 数学B -4.0(-7.0)</p> <p>④「毎日予習・復習を行った」の肯定的評価全学年70%以上</p> <p>⑤「毎日朝読書をしている」の肯定的評価全学年95%以上</p> <p>⑥「自分の思いや考えを他の人に伝えている」の肯定的評価全学年90%以上</p> <p>⑦「どの授業もよく理解できた」の肯定的評価全学年80%以上</p> <p>⑧「先生は毎時間めあてを提示している」の肯定的評価全学年95%以上</p> <p>⑨「先生は毎時間振り返りをしている」の肯定的評価全学年85%以上</p> <p>⑩進路未決定者0%</p>	<p>①②③④亀山中授業スタンダードの確立を毎時間実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・亀山中授業スタンダードとは「はじまり → めあての確認 → 個人活動 → ペア・グループ活動 → 全体に戻す → 振り返り → おわり」の授業展開である。</li> <li>・授業のユニバーサルデザイン（教室掲示・板書など）を意識し、「特別支援の視点での授業改善」や「生徒指導の三機能を生かした授業」への取り組みを継続する。</li> <li>・放課後の時間を利用して、週1～2の割合で自習教室を開催する。</li> </ul> <p>④自主学習ノートを提出させ、家庭学習時間を集計して累計時間を調べる取り組み</p> <p>⑤担任教員が毎朝朝読書指導をする。</p> <p>⑥協働学習を通して授業の中で意図的に発表の場面をつくる。</p> <p>⑦全教員が授業公開を行う</p> <p>⑧つけない力を意識した「めあて」の決定をする。</p> <p>⑨「めあて」「振り返り」について教科会で交流する</p> <p>⑩3学年では進路通信を発行するなどきめ細かな指導を行うとともに、1年次から進路説明会（生徒・保護者対象）を実施し、早めに進路に向けての意識付けを図る。</p>

<b>[中期経営目標]</b> 豊かな人間性の育成（徳） ア）規範性を育み集団の一員として生きていく力を身につけた生徒の育成 イ）自主性・自律性に富み、自らを豊かに表現できる生徒の育成		<b>[評価指標]</b> ○問題行動（暴力行為、万引き、喫煙等）の発生件数を0件 ○「道徳の授業はためになった」の肯定的評価が全学年80%以上 ○「自分に自信が持てるところが増えた」の肯定的評価80%以上 ○校内や地域へのボランティア活動に参加した生徒延べ850名
<b>短期経営目標</b>	<b>評価指標</b>	<b>主な具体的方策</b>
ア）規範性を育み集団の一員として生きていく力を身につけた生徒の育成	⑪「立ち止まって礼ができていく」の肯定的評価全学年90%以上 ⑫「部活動にはほとんど休まず取り組んだ」の肯定的評価全学年93%以上 ⑬問題行動（暴力行為・万引き・喫煙等）の発生件数0件 ⑭「道徳の授業はためになった」の肯定的評価全学年90%以上 ⑮「先生方はよく話を聞いてくれる」の肯定的評価全学年90%以上	⑪朝のあいさつ運動を行う。朝会や授業の始めと終わり、全校集会等で「立ち止まって礼」を促し、意識付けを行う ⑫各クラブで出席状況をチェックし、日頃から休まないようにクラブ内で取り組む ⑬校内見回りを強化する。学年集会で校内のルールを守ることから法を守る指導につなげる ⑭全校集会や授業など日頃の活動の中で道徳の授業で得た価値観を引用する ⑮生徒とあらゆる場面で共に活動し、生徒の変化を見逃さない。また、年3回のアンケート調査を実施し、いじめの早期発見に努める。
イ）自主性・自律性に富み、自らを豊かに表現できる生徒の育成	⑯「自分に自信の持てるところが増えた」の肯定的評価90%以上 ⑰校内や地域へのボランティア活動に参加した生徒延べ850名	⑯意識して「褒める」場面を増やす ⑰代議員会や学校朝会で呼びかけ、ボランティア活動への意識を高める

<b>[中期経営目標]</b> 健やかな心体（体） ア）健康・安全について関心を高め、健康で安全な行動ができる態度を身につけた生徒の育成を図る イ）困難に立ち向かい乗り越えることのできるたくましい生徒の育成を図る。		<b>[評価]</b> ○体力アップ認定証の割合 生徒数の33%以上 ○給食残食率年間平均5%以内 ○県大会以上の大会への出場生徒数延べ130名
<b>短期経営目標</b>	<b>評価指標</b>	<b>主な具体的方策</b>
ア）健康・安全について関心を高め、健康で安全な行動ができる態度を身につけた生徒の育成を図る	⑱体力優秀賞の割合 生徒数の8%以上 ⑲体力アップ認定証の割合生徒数の36%以上 ⑳給食残食率年間平均4%以内	⑱⑲体力テストの結果を分析し、毎時間の補強運動で強化する。体を動かす時間を多く確保できるような授業改善を行う。 ⑳養護教諭と連携し、食育だよりなどを充実する。各クラスで残食率の少ないクラスを表彰する。
イ）困難に立ち向かい乗り越えることのできるたくましい生徒の育成を図る	㉑県大会以上の大会へ出場生徒数延べ130名以上	㉑各クラブで目標を設定し取り組む。

<b>[中期経営目標]</b> 開かれ信頼される学校（信） ア）学校の情報を積極的に発信する イ）研修を充実し「教師力」の向上。		<b>[評価]</b> ○「学校の情報は分かりやすく伝わっている」と答えた保護者が95%以上 ○「教員は熱心に生徒の指導にあたっている」全保護者95%以上
<b>短期経営目標</b>	<b>評価指標</b>	<b>主な具体的方策</b>
ア）学校の情報を積極的に発信する	㉒HPの年間アクセス数135,000件 ㉓「学校情報はわかりやすく伝わっている」全保護者98%以上	㉒HPの内容を生徒だけでなく、保護者のニーズに合わせて構成する。 ㉓「学校だより」「HP更新」「メールの配信」を適宜行う。
イ）研修を充実し「教師力」の向上。	㉔体系化・組織化された校内研修の計画的実施 ㉕「教員は熱心に生徒の指導にあたっている」全保護者98%以上	㉔各分掌と連携を図る。年間計画等の作成 ㉕25項目の努力事項に教職員全員で取り組む。

学校教育目標

自ら伸びる・ともに伸びる  
～仲間と共に学び高め合う児童の育成～

目指す児童像

考える子・課題意識を持って行動し、生き生きと学ぶ子 明朗な子・自他のよさを認め合い互いを尊重し合う子  
やりぬく子・何でも前向きに挑戦し、主体的に行動できる子 まじめな子・規範性を身につけ、一生懸命に取り組む子

現状と課題

学力面	◎児童のつまずきに未然に対応できるような授業展開の工夫や学習の流れのパターン化、ノート指導の工夫などを行うことで、児童が安心して学習に取り組めるようになってきた。また、授業の中で、児童同士が学びあう時間を設定したり、焦点を絞って授業づくりを行ったりした結果、意欲面(79.8%)に加えて「わかった」「できた」と理解面(82.8%)についても実感できる児童が増えた。 ◎保護者の方の協力や、学校での指導により、落ち着いて家庭学習に取り組む児童が82.2%と増加する結果につながった。 ●習得・活用面を高めていけるような授業づくりを行い、既習事項を活用して学習できる児童を増やし確かな学力を定着させていく必要がある。 ●様々な家庭事情があるので、家庭学習や自主学習の進め方について、児童自ら家庭学習に取り組めるよう指導の工夫に努め、クラスでもっと丁寧に指導をして取組を考えていく必要がある。
体力面	◎運動場にサイドステップの練習ができるポイントを設け、各クラス、体育の授業始めのサーキット運動に取り入れている。また、体育館での体育の授業始めにも、通常のサーキット後に、反復横とびのラインを利用して、反復横とびの練習をしている。体育委員の取り組みで「なわとびチャレンジ」や「長縄オリンピック」のイベントを行うことで、寒い時期にもなわとび運動をする児童が多かった。体育委員の取り組みで「なわとびチャレンジ」や「長縄オリンピック」のイベントを行うことで、寒い時期にもなわとび運動をする児童が多かった。 ●サーキット運動に加え、「反復横跳びチャレンジ週間」などの取組を行い、1～2月に計測を行って約10ヶ月の伸びを計測したい。外遊びの奨励を特別しなかったため、来年度は委員会活動を中心に、なわとび運動のイベントを続け、外遊びの奨励の取組も行っていきたい。
生活面	◎「掃除の流れ」や「だまって掃除の振り返り」などの掲示を各クラスに配布し、「トイレ掃除の仕方」のビデオを流すこと、日々の清掃指導の成果もあり、基本的な掃除の仕方が身についた。「全校完全無言清掃」の取組においては、11月末のアンケートで「①黙って掃除ができた人」が91%、「②黙って掃除ができた人の中で見つけ掃除ができた人」が56%、2月末のアンケートでは同じく①が87%、②が65%という結果であった。 ●「見つけ掃除」においては、評価の仕方もあり数値的には60%台に留まったが、ビデオ撮影の中などには「見つけ掃除」を頑張る姿も多々あり、意識は上がってきた。

[中期経営重点目標] 学力・体力面	学習や体力づくりへの意欲を高めさせ、学習規律や学習・運動習慣を育みながら、確かな学力の定着と体力の向上を図る。	[評価指標] ○家庭学習週間の記録カードの達成が全学年80%以上 ○算数科の学習アンケートの達成が80%以上 ○新体力テストの反復横跳びで、5月の個人の記録が2回目(11月)で3点以上伸びた児童が70%以上 ○無言で意欲的に清掃に取り組めた児童アンケートの達成が80%以上
生活面	規範意識や自他を尊重する態度を養い、支持的風土のある居心地のよい学級・学年・学校集団を育成する。	

短期経営目標	評価指標・基準	主な具体的方策	総合評価	考察(分析と今後の改善点)
ユニバーサルデザインの授業づくりの視点を取り入れ、児童が主体的に学習に取り組む課題を解決する指導法の工夫・改善	学習アンケート(算数科)をとり集計する。 A 目標達成 80%以上 B ある程度達成 70%以上80%未満 C もう少し 60%以上70%未満 D できなかった 60%未満  単元末テストで、通過率60%未満の児童を0に近づける。 A 目標達成 0～10% B ある程度達成 10%以上20%未満 C もう少し 20%以上30%未満 D できなかった 30%以上	○算数科における「学習アンケート」を年3回(6月・11月・2月)実施し、つまずきや苦手意識をもっている児童を把握し、指導に生かす。 ○昨年度に引き続き、算数科における学習に対して苦手意識をもっている児童を含め、全ての児童に対して、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりの工夫及び改善を行う。 ○全国学力学習状況調査や3年生評価問題の結果分析をもとに、学力向上のための方策を協議する研修会を2回もつ。 ○算数科における授業で、板書やノートの取り方の工夫に取り組み、児童が意欲的に学習できるように「分かる授業」「楽しい授業」の改善を図る。		
基礎的・基本的な知識や技能の定着	家庭学習週間の記録カードを集計する。 A 目標達成 全学年80%以上 B ある程度達成 75%以上80%未満の学年がある。 C もう少し 70%以上75%未満の学年がある。 D できなかった 70%未満の学年がある。	○「家庭学習週間」を年3回実施し、落ち着いて家庭学習に取り組むようにさせる。 ○保護者向けにお便りを出し、家庭学習についての協力を呼びかける。 ○児童自ら家庭学習に取り組むよう、指導の仕方を工夫する。 ○10分×学年+10分の家庭学習の時間、自発的に自主学習に取り組むことを奨励する。(宿題や読書を含む。)		
基礎的な体力・運動能力の育成	新体力テストの反復横跳びで、5月の個人の記録が2回目(2月)で4点以上伸びた児童の割合を集計する。 A 目標達成 70%以上 B ある程度達成 60%以上70%未満 C もう少し 50%以上60%未満 D できなかった 50%未満	○運動場にサイドステップの練習ができるポイントを設け、各クラス、体育の授業始めのサーキット運動に取り入れる。また、体育館での体育の授業始めにも、通常のサーキット後に、反復横とびのラインを利用して、反復横とびの練習をする。 ○サーキット運動に加え、「反復横跳びチャレンジ週間」などの取組を行い、1～2月に計測を行って約10ヶ月の伸びを計測する。 ○体育委員の取り組みで「なわとびチャレンジ」や「長縄オリンピック」のイベントを寒い時期を中心に行う。委員会活動を中心に、なわとび運動のイベントを続け、外遊びの奨励の取組も行っていく。		
無言清掃を通して、自分の心を磨き(がまんする心・気づく心・思いやる心を育てる)、無言で意欲的に清掃に取り組む子どもの育成(3年次)	無言で意欲的に清掃に取り組めたか、児童アンケートを3回(6月・11月・2月)とる。 A 目標達成 80%以上 B ある程度達成 70%以上80%未満 C もう少し 60%以上70%未満 D できなかった 60%未満	○意欲的に掃除を行えるように、「掃除の流れ」や「だまって掃除の振り返り」などを各クラスに配布する。さらに、上手な掃除の仕方をビデオ放送で流し、7月末までに基本的な清掃指導を徹底する。(掃除の仕方の指導) ○毎週火曜日は、児童と一緒に、全教職員も無言で清掃活動に取り組む(完全無言清掃日)、児童が意欲的に清掃できるよう「言葉でなく後ろ姿」指導する。(掃除の心構え指導) ○無言清掃に意欲的に取り組んでいる児童や教員の様子をビデオに撮り、給食時間に紹介する。(ビデオ紹介) ○委員会を中心に無言清掃を放送で呼びかけたり、啓発ポスターを掲示したりする。(放送・ポスター啓発) ○3年次ということで「気づく心(みつけ掃除)」「思いやる心(協力掃除)」をより意識した指導を行う。そのため、「掃除の毎日の反省会の項目」に「今日の掃除の気づく心(みつけ掃除)」と「思いやる心(協力掃除)」の項目を入れ、児童自身の意識の醸成に繋げたい。また、年3回の児童アンケートでの実態把握を活かし、より効果的な指導を継続的に行う。(評価・指導)		



1 学校教育目標

認め合い、支え合い、学び合う 心豊かな子どもの育成  
 ～ 地域を誇り 夢をもつ 主体的な子ども ～  
 学校は、子どもたちが様々な出会いや出会いを通して成長する場、自らを育ててくれている地域を愛する心やお互いを大切にすることを育成する場、一人一人が“夢”をもち目標に向かって努力する場、どのような状況であっても逃げ出すことなく、最後まで学ぼうとする力や自立心を育む場等でなければならない。本校では、地域性を鑑みて、子どもたちがお互いの良さを認め合い、支え合いながら、自己肯定感を向上させる教育、一人一人が将来の夢をいだき、夢の実現に向けて主体的に学び合い、優しさを併せもつ思いやりを育成する教育等の推進するとともに、育ててくれている地域、関わっている人々に感謝でき、地域を誇れる子どもを育成するようにする。

2 目指す姿（学校像・幼児児童生徒像・教師像）

- 目指す学校像
  - ・教育環境が整い、落ち着きと秩序のある学校
  - ・子どもと教職員が互いの信頼と豊かな指導力で結ばれた学校
  - ・子どもが将来の目標と希望をもち、みんなで生き生きと活動する学校
  - ・保護者、地域から信頼され、「まちぐるみ」教育の中心となる学校
- 目指す子ども像
  - ・地域を誇れる子ども
  - ・夢をいだき進んで学ぶ子ども
  - ・主体的に取り組む子ども
  - ・思いやりのある子ども
  - ・支え合いやり通す子ども
- 目指す教師像
  - (1) 信念・教育理念を尊重するとともに、学校経営計画に基づき、自ら自律して職務を誠実に遂行する。
  - (2) 教育専門職を自覚し、自己研鑽に努め、振り返り、切磋琢磨して資質向上を目指す等、向上し続ける。
  - (3) 常に周りから観られていることを自覚し、子どもの健全育成に向け言語環境等、教育環境を整備する。
  - (4) 学校教育目標を達成するため、教育の専門家及び組織の一員として協働し、質の高い教育を実践する。

3 現状と課題

昨年度までに、わからないことを素直に「わからない。」と言える学級風土をつくることや学習のめあてや意図に応じたグループやペアでの学習形態を仕組むこと、「つなぐ」「もどす」を意識した授業を実践することを継続して取り組んできた結果、「授業が分かって楽しい。」という割合が増え、子どもの自己肯定感が高まりつつある。しかしながら、SNS等の急激な普及等が要因の一つと考えられる子どものコミュニケーション能力不足や家庭との連携・協力の希薄さから子どもの精神的安定が不十分で、あきらめずやり遂げる意欲の欠如が見られることがある。

4 目標

[中期経営重点目標]		[評価指標]
・「確かな学力」を育むための授業改善を図り、「習得型」の学習、「活用型」の学習を意図的・計画的に取り入れながら、実態に即した「探究型」の学習に変容し、「豊かで深い学び」を創造する。「主体的な学び」「対話的な学び」「課題発見・解決の学び」を追究することで、単元テスト70%未満の子どもの割合を10%未満にする。		○自己肯定感に関する児童アンケートで否定的な回答をする児童の割合が7%未満。 ○「個に応じた指導研究校 学力調査」の正答率30%未満の児童の割合を限りなく0に近付ける。 ○国語と算数の単元テストでの平均得点率70%未満の児童の割合が10%以内。
短期経営重点目標（年目）	評価指標・基準	主な具体的方策（努力指標を含む表現）
<b>「確かな学力」を育む授業を創造し、「授業がよく分かって楽しい」と答える児童の割合を85%以上にし、学力の向上を図る。</b>	児童アンケートで「授業がよく分かって楽しい」と答える児童の割合 4 85%以上 3 75%以上 2 65%以上 1 65%未満 国語と算数の単元テストでの得点率70%未満の児童の割合 4 15%未満 3 20%未満 2 25%未満 1 25%以上	<b>学習のめあてや意図に応じたグループやペアでの学習形態を仕組む。</b> 4 80%以上の教員が実施 3 70%以上 2 60%以上 1 60%未満 読書を推進する取組を計画し、継続して実施する。 4 80%以上の教員が実施 3 70%以上 2 60%以上 1 60%未満 <b>スキル学習を推進する取組を計画し、継続して実施する。</b> 4 80%以上の教員が実施 3 70%以上 2 60%以上 1 60%未満
	児童アンケートで「自分から進んで外に出て遊んだり、運動したりすることができた」と答える児童の割合 4 80%以上 3 75%以上 2 70%以上 1 70%未満	児童に外遊びを呼びかけたり、クラス遊びや運動を仕組んだりする。 4 80%以上の教員が実施 3 70%以上 2 60%以上 1 60%未満 授業の中で握力を高める遊びや運動を取り入れる。 4 80%以上の教員が実施 3 70%以上 2 60%以上 1 60%未満 食育を推進する取組を計画し、実施する。 4 80%以上の教員が実施 3 70%以上 2 60%以上 1 60%未満
<b>「自分にはがんばっていることがある」と感じていない児童の割合を10%未満にし、児童の自己肯定感の向上を図る。</b>	「自分にはがんばっていることがある」という項目に対し否定的に回答する児童の割合を10%未満にする。 4 10%未満 3 15%未満 2 20%未満 1 25%未満	構成的グループエンカウンターを取り入れた人間関係づくりの活動を行っている。 4 80%以上の教員が実施 3 70%以上 2 60%以上 1 60%未満 <b>各教科や特別な教科道徳、特別活動などの時間を中心に、自分の成長を振り返る活動を実践している。</b> 4 80%以上の教員が実施 3 70%以上 2 60%以上 1 60%未満 <b>各教科や特別な教科道徳、特別活動などで、児童同士が認め合う活動を行っている。</b> 4 80%以上の教員が実施 3 70%以上 2 60%以上 1 60%未満

# 亀山中学校区（亀山小・亀山南小・亀山中）における「個に応じた指導特別研究校」年間指導計画

広島市立亀山小学校  
 広島市立亀山南小学校  
 広島市立亀山中学校

（校長・教頭・教務主任・研究主任・工夫改善リーダー・担当教員等）  
**学力向上推進委員会（各学校に設置）**

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
算数・数学を中心とした授業改善及び学習状況の把握	共通	全国学力・学習状況調査（小6・中3）	②学力調査（小3・中1）	②学力調査（中2）		①少人数授業及びT・Tの効果的な指導方法の研究		全国学力・学習状況調査結果分析校内研修		②学力調査（小3～小6、中1）			
	小学校		②まとめテスト		②まとめテスト			②まとめテスト		②まとめテスト		②まとめテスト	
	中学校	②確認テスト（中1）5教科 ②実力テスト（中3）	②小テスト（GW明け）	②前期中間テスト	②小テスト（夏休み前）		②前期期末テスト	②小テスト（後期始め）		②後期中間テスト		②冬休み明けテスト	②後期期末テスト
	共通		③帯学習（毎日15分）		③帯学習（毎日15分）		③帯学習（毎日15分）		③帯学習（毎日15分）		③帯学習（毎日15分）		③帯学習（毎日15分）
放課後等補充学習	共通		③家庭学習支援 授業内容との関連付け定着を図った学習課題の提示		③家庭学習支援 授業内容との関連付け定着を図った学習課題の提示		③家庭学習支援 授業内容との関連付け定着を図った学習課題の提示		③家庭学習支援 授業内容との関連付け定着を図った学習課題の提示		③家庭学習支援 授業内容との関連付け定着を図った学習課題の提示		③家庭学習支援 授業内容との関連付け定着を図った学習課題の提示
	小学校		①放課後学習		②夏休み補充学習		①放課後学習		②冬休み補充学習		①放課後学習		②冬休み補充学習
	中学校		①「絆」学習会を中心とした学習支援		②夏休み補充学習		①「絆」学習会を中心とした学習支援		②冬休み補充学習		①「絆」学習会を中心とした学習支援		②冬休み補充学習
	共通		③中学校試験前学習		③中学校試験前学習		③中学校試験前学習		③中学校試験前学習		③中学校試験前学習		③中学校試験前学習（1・2年）
小中連携	共通		①個別支援シートの活用（別紙参照）、②小中共通の課題解決の取組		①個別支援シートの活用（別紙参照）、②小中共通の課題解決の取組		①個別支援シートの活用（別紙参照）、②小中共通の課題解決の取組		①個別支援シートの活用（別紙参照）、②小中共通の課題解決の取組		①個別支援シートの活用（別紙参照）、②小中共通の課題解決の取組		①個別支援シートの活用（別紙参照）、②小中共通の課題解決の取組
	研究会		③連携授業研究会	③連携授業研究会	④中学校区教科等研究会 各教科部会	③連携授業研究会	④中学校区教科等研究会 公開研究会	③連携授業研究会	④中学校区教科等研究会 公開研究会	③連携授業研究会	④中学校区教科等研究会 公開研究会	③連携授業研究会	④中学校区教科等研究会 公開研究会

### 授業改善

**【研究方法】**  
 「豊かで深い学び」を実現するための習得に重点を置いた指導方法に係る実践研究を行うとともに、学び直しやくり返し学習が効果的に行える教材を作成し、成果物等を他校に情報提供する。

**【取組内容】**

- ① 学力向上推進プラン、授業スタンダードを活用した少人数授業及びT・Tの効果的な指導方法の研究
  - 1学級2展開による均質又は習熟度別少人数授業及びチーム・ティーチングによる授業の効果的な指導方法について研究
  - 授業展開の工夫
    - ・開始後5分間で、前時までの確認問題等を実施
    - ・終末に本時のねらいの到達度を測る問題を実施
- ② 学力調査等を活用した児童生徒の学習状況の把握と指導方法の工夫改善
  - 年間を通して実施し、児童生徒の学習状況をきめ細かく把握し、個に応じた丁寧な指導に役立てる。
- ③ 帯時間や暮会を活用した学び直しやくり返し学習の実施
  - 算数・数学を中心とした10分程度のくり返し学習の実施や、家庭学習の取組を工夫し、基礎・基本の確実な定着を図る。

### 放課後等補充学習

**小学校：補充学習**

**【実施方法】**  
 自ら学習したい児童及び基礎的・基本的な学力や家庭での学習習慣が未定着な児童を対象とした学習支援活動を行う。

**【取組内容】**

- ① 放課後学習
  - 週に1回以上実施、1回あたり1時間程度
  - まとめテスト等の結果に応じて、対象児童を決定
- ② 長期休業中補充学習
  - 夏季休業中、冬季休業中に実施

**【スクール・サポート・スタッフ（有償・週20時間程度、各校1名）の配置】**

- 算数、数学の学習プリントや授業で使用する教材等の印刷・準備や児童生徒の学習支援等

### 中学校：「絆」学習会を中心とした学習支援

**【実施方法】**  
 自ら学習したい生徒及び基礎的・基本的な学力や家庭での学習習慣が未定着な生徒を対象とした学習支援活動を行う。

**【取組内容】**

- ① 「絆」学習会を中心とした学習支援
  - 「絆」学習会
    - ・週に1度以上実施（原則、水曜日）
    - ・16：10から1時間程度
    - ・コーディネーター、大学生等による学習支援者など、地域の人材に支えられた学習の場を提供
  - 放課後の学習室の開放
    - ・担当教員を中心に16：10から1時間程度（原則、毎日）
- ② 長期休業中補充学習
  - 夏季休業中、冬季休業中に実施
  - 「絆」学習会実施の詳細は、協議して定める。

### 小中連携

**【取組内容】**

- ① 個別支援シートの作成を活用した、個に応じた指導・支援
  - 児童生徒の基礎的・基本的な学習内容の定着状況を把握し、授業中や放課後等補充学習において的確な指導を行うために活用
- ② 小中共通の課題解決の取組
  - 全国学力・学習状況調査等の分析
  - 個別支援シートを活用した情報共有
- ③ 連携授業研究会による授業改善の連携
  - 指導方法工夫改善リーダーを中心とした、算数・数学の授業参観及び研究協議の実施
- ④ 中学校区教科等研究会
  - 算数・数学を中心とした授業改善や家庭学習の取組の成果を各教科の授業実践に活用
  - 中学校区全教員による公開授業研究会及び研究協議



# 広島市の英語教育推進について

有識者からの助言（広島市立大学等・文部科学省）

## リサーチ・スクール（研究校）

**<役割>**  
 生徒の「英語によるコミュニケーション能力」を向上させるために、効率的・効果的な教育方法を研究・開発する

**<対象校>**  
 広島中等教育学校  
 ○ 中高6年間を見通したプログラムの開発と検証を行うことができる  
 ○ 市内全域から生徒が入学している  
 ○ 入学者選抜を実施しており、生徒の層がある程度限定できる

**<目標>**（国：英検3級程度以上50%）  
 ○ CEF R B1（英検2級相当） 50%  
 （H28年度対象校実績 約27%）  
 ○ CEF R A2（英検準2級相当） 100%  
 （H28年度対象校実績 約52%）

**<目指す生徒像>**  
 ○ 聞くこと：日常生活での情報・説明を聞き取ったり、まとまりのある内容を理解することができる  
 ○ 読むこと：まとまりのある説明文を理解したり、実用的な文章から必要な情報を得ることができる  
 ○ 話すこと：日常生活での出来事について説明したり、用件を伝えたりすることができる  
 ○ 書くこと：日常生活での話題についての程度まとまりのある文章を書くことができる

### <主な取組内容> 英語教育の充実

<4技能の育成> 広島市立大学作成eラーニングの活用（中学校版）  
\*習熟度によって高等学校版も使用可能

### 英語を使う場の創出

<聞く・話す技能の育成> イングリッシュキャンプ

<聞く・話す技能の育成> 留学生との交流・市立大学との連携（大学教授等による出前講座）

<聞く・話す技能の育成> 平和教育ガイドボランティアの実施

## プロモーション・スクール（推進校）

**<役割>**  
 開発したプログラムを全公立小・中学校に普及させる前段階として、リサーチ・スクール（研究校）で成果をあげた好事例等を検証する

**<対象校>**  
 大塚中学校・大塚小学校・伴南小学校・石内北小学校  
 ○ 広島市立大学の近隣に位置しているため、プログラムの先行実施を容易に行うことができる  
 ○ 留学生との交流などにすでに取り組んでいる学校がある。

### <外国語科の目標>

○ 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、書くこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する

### <目指す生徒像>

○ 聞くこと：ゆっくりはっきりと語られれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする など  
 ○ 読むこと：活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができる など  
 ○ 話すこと[やり取り]：基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができる など  
 ○ 話すこと[発表]：日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる など  
 ○ 書くこと：大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き出すことができる など

### <主な取組内容> 英語教育の充実

<聞く・話す技能の育成> 専科教員の配置

<聞く・話す技能の育成> 英語担当教員海外研修

### 英語を使う場の創出

<聞く・話す技能の育成> イングリッシュデイ（留学生等との交流）・市立大学との連携（大学教授による小中台同授業講師）

### CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）について

○ B2：社会生活で幅広い話題について 複雑な文章でも主要な部分を理解できる。ネイティブと自然な会話ができ、明確かつ詳細に自分の意見を表現できる  
 ○ B1：社会生活で身近な話題について 理解し、自分の意思とその理由を筋の通った文章で簡単に説明できる  
 ○ A2：身近で日常的なことかららについての文やよく使われる表現が理解でき、簡単なやりとりができる

### 後期課程

<目標>（国：英検準2級～2級程度以上 50%）  
 ○ CEF R B2（英検準1級・GTEC1190以上） 50%  
 （H29年12月現在対象校実績 0%）  
 ○ CEF R B1（英検 2級・GTEC960以上） 100%  
 （H29年12月現在対象校実績 約43%）

### <目指す生徒像>

○ 聞くこと：社会性の高い内容を理解することができる  
 ○ 読むこと：社会性の高い分野の文章を理解することができる  
 ○ 話すこと：社会性の高い話題について、説明したり、自己意見を述べたりすることができる  
 ○ 書くこと：日常生活の話題や社会性のある話題についてまとまりのある文章を書くことができる

### <主な取組内容> 英語教育の充実

<4技能の育成> 広島市立大学作成eラーニングの活用（高等学校版）

### 英語を使う場の創出

<聞く・話す技能の育成> 海外修学旅行

<聞く・話す技能の育成> 海外修学旅行

<聞く・話す技能の育成> 市立大学との連携（大学教授等による出前講座）

### CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）について

○ A2：身近で日常的なことかららについての文やよく使われる表現が理解でき、簡単なやりとりができる  
 ○ A1：日常生活でよく使われる基本的な表現や言い回しを理解し、ゆっくりとであれば簡単なやりとりができる

### 大塚中学校

<目標>（国：英検3級程度以上50%）  
 ○ CEF R A2（英検準2級相当） 50%  
 ○ CEF R A1（英検 3級相当） 100%  
 （H28年度対象校実績 約45%）

### <目指す生徒像>

○ 聞くこと：日常生活での話題や簡単な説明・指示を理解することができる  
 ○ 読むこと：簡単な説明文を理解したり、図や表から情報を得ることができる  
 ○ 話すこと：日常生活で簡単な用を足したり、興味・関心のあることについて自分の考えを述べる  
 ○ 書くこと：興味・関心のあることについて簡単な文章を書くことができる

### <主な取組内容> 英語教育の充実

<聞く・話す技能の育成> A.L.T.の複数配置

<4技能の育成> 英語授業1単位増

### 英語を使う場の創出

<聞く・話す技能の育成> 市立大学との連携（大学教授による小中台同授業講師）

## 全公立小・中学校